

地水火風

牧野 恒一

熊本の連続地震もようやく落ち着いて来たように、自衛隊や緊急消防援助隊など、心急対応部隊は撤収した。だが、現地の復旧・復興はこれからだ。M6・5の「前震」

の後にM7.3の「本震」が来た、という衝撃の後遺症は大きく、前例のない混乱が続いているようだ。地震後1カ月半を過ぎた今、改めてこの地震が提起した問題を考えてみたい。

確かに、熊本のような複雑な断層地帯なら、一つの断層を震源とする地震を契機として、もともと歪みをため込んでいた隣

新潟県中越沖地震、東日本大震災などでも大活躍した。自宅に調査済(緑)のステッカーが貼られれば避難所から自宅に戻れるため、被災者も、避難所を運営する自治体も楽になり、復旧、復興のスピードアップにも繋がっている。

「怖くて自宅で寝られなかった。」

「怖くて自宅で寝られなかった。」

大きな地震が発生する

「怖くて自宅で寝ることができない人がたくさんいることだ。」

「避難所だって次の地震で倒壊しないとも限らない」と心配で、避難所で寝られない人も多かった。

「車中泊」の人たちがたくさんいた。

熊本地震の提起した問題を考える

「前震と本震と余震」

熊本地震の最大の特徴は、最大震度7の「前震」の28時間後に、それを上回る「本震」が襲って来たことだ。4月14日の「前震」の直後は、誰もがこの地震を「本震」だと思

「前震と本震と余震」

熊本地震の最大の特徴は、最大震度7の「前震」の28時間後に、それを上回る「本震」が襲って来たことだ。4月14日の「前震」の直後は、誰もがこの地震を「本震」だと思

「前震と本震と余震」

「前震と本震と余震」

熊本地震の最大の特徴は、最大震度7の「前震」の28時間後に、それを上回る「本震」が襲って来たことだ。4月14日の「前震」の直後は、誰もがこの地震を「本震」だと思

「前震と本震と余震」

熊本地震の最大の特徴は、最大震度7の「前震」の28時間後に、それを上回る「本震」が襲って来たことだ。4月14日の「前震」の直後は、誰もがこの地震を「本震」だと思

「前震と本震と余震」